

V 花 き

1 花き病害虫

花き病害虫重点防除指導方針

本県農業の活性化および農業所得の向上を図るためには、これまで以上に園芸振興への取り組みが重要な課題となっている。

このため、数多くの品目の中から戦略的品目、基幹品目と地域特産品目を指定し、生産振興のための各種施策を積極的に実施している。

収量・品質の高位安定化を図るため、防除の指導に当たっては、それぞれの病害虫の生態や薬剤の性質を熟知し、耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生动向に注意して適正に防除する。

1 耕種的防除の推進

- (1) 有機物の施用、深耕等による土づくりを推進し、健全な生育に努める。
- (2) 排水対策、整枝剪定等により栽培環境を改善する。

2 農薬による防除技術

- (1) 主要病害虫の発消長を明らかにし、適期防除を推進する。
- (2) 農薬抵抗性害虫および耐性菌発生による防除効果の低下を回避するため、同一系統農薬の連用を避ける。
- (3) 同一成分を含む薬剤には使用回数制限があるので注意する。

例. オルトラン水和剤とジェイエース水和剤はそれぞれの薬剤の使用回数制限が2回以内とされている。しかし、両方の薬剤は同一成分（アセフェート）を含む農薬に該当しており、使用回数が両方の薬剤を通して2回以内でなければならない。

- (4) 生育後期には、商品価値を下げないため、葉面や花卉に汚れの少ない薬剤を使用する。
- (5) 薬剤によって品種が変わると薬害を起こすことがあるので、小規模散布を行って薬害のないことを確認する。
- (6) 多量散布、高温時の散布、極端な連用、近接散布などは薬害の出ることがあるので注意する。

(1) キク

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
褐斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300%/10a	発病前～発病初期	散布	6回以内
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300%/10a	-	散布	5回以内
黒さび病	マネージ乳剤	イミベンコナゾール乳剤	3		500～1000倍	0.2～0.3%/㎡	発病初期	散布	6回以内
黒斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300%/10a	発病前～発病初期	散布	6回以内
さび病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
白絹病	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～5mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	クロルピクリン錠剤	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	トクロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
白さび病	アンビフルアゾール	ヘキサコナゾール水和剤	3		1000倍	150～300%/10a	発病初期	散布	7回以内
	カナメアゾール	インビフルキサム水和剤	7	劇	4000～8000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	3回以内
	コナアゾール	水和硫黄剤	"UN(I*)		800倍	100～300%/10a		散布	-
	サポール乳剤	トリホリン乳剤	3		1000～1500倍	100～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ジマンダィセンアゾール	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		500～800倍	150～300%/10a	-	散布	8回以内
	ストロビフルアゾール	クレシキメチル水和剤	11		2000～3000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	3回以内
	フルト乳剤25	ブロピコナゾール乳剤	3		3000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	3回以内
	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		1000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	トリアミン乳剤	トリアルミン乳剤	3		1000倍	100～300%/10a	-	散布	5回以内
	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		500～1000倍	100～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ビリカット乳剤	ジフルメトリム乳剤	39		1000倍	0.2～0.3%/㎡	発病初期	散布	6回以内
	マネージ乳剤	イミベンコナゾール乳剤	3		500～1000倍	0.2～0.3%/㎡	発病初期	散布	6回以内
	ラリ乳剤	ミクロブタニル乳剤	3		3000倍	200～300%/10a	発病初期	散布	5回以内
立枯病	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～5mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	クロルピクリン錠剤	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	1㎡当り6錠 1穴当り1錠			土壌くん蒸<圃場>「1㎡当り6錠処理」地表面に所定量を散布処理する。 土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内) 2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
	トクロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当り 2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
炭疽病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
半身萎凋病	クロルピクリン錠剤	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
べと病	エムダィファア水和剤	マンネブ水和剤	M3		400～650倍	100～300%/10a	発病初期	散布	8回以内
アザミヤ類	アファム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		1000～2000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	5回以内
	スピノース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	2回以内
	トクチオン乳剤	ブロチオス乳剤	1B		1000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	5回以内
	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	4回以内
	ファインセーブフロアゾール	フロメキン水和剤	34	劇	2000倍	100～300%/10a	発生初期	散布	2回以内
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		1g/株		生育初期	株元散布	1回

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
アブラムシ類	アデント水和剤	アクリナリン水和剤	3A		1000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	5回以内
	ウララ50DF	フロニカミド水和剤	29		5000～10000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内
	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000～2000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内
オオタバコガ	アネキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内
	スピノース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内
コガネムシ類幼虫	D-D	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
センチュウ類	コロピクリン錠剤	コロピクリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
センチュウ類(ハカレセンチュウを除く)	カスタード微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バースアミド微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
ネグサレセンチュウ	D-D	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～40g/10a(1穴当たり1.5～4mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～40g/10a(1穴当たり1.5～4mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	ネマトリンエース粒剤	ホスチアベート粒剤	1B		20～25kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回
ネコブセンチュウ	D-D	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	「-」→ 8A,8A	劇	15～20g/10a(1穴当たり1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
ハスモンヨトウ	オリオン水和剤40	アラニカルブ水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内
ハダニ類	コテツアロアブル	コロフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内
	スターマイトアロアブル	シエノピラフェン水和剤	25A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	1回
	テルスター水和剤	ピフェントリン水和剤	3A		1000倍	150～300g/10a	-	散布	3回以内
	ピラニカEW	テフフェンピラト乳剤	"21A(I*)	劇	1000～2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	1回

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ハモクノリノエ類	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1ℓ/㎡	発生初期	灌注	5回以内
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1ℓ/㎡	発生初期	灌注	5回以内
	スピノセス顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	2回以内
マハモクノリノエ	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	5回以内
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	3回以内
	ジエセス粒剤	アセフェート粒剤	1B		6～9kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内
ミナキイロサミウマ	アデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		1000倍	150～300ℓ/10a	発生初期	散布	5回以内
	オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	1A		9kg/10a		生育期	株元散布	3回以内
	カスケード乳剤	フルフェノキサロン乳剤	15		2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期	散布	3回以内
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		2g/株		発生初期	生育期株元散布	4回以内
ミナキイロサミウマ	オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	1A		6～9kg/10a		定植時	植溝土壌混和又は株元散布	1回
					9kg/10a		生育期	植溝土壌混和又は株元散布	3回以内
	コテツロアール	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300ℓ/10a	発生初期	散布	2回以内

(2) ストック

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
萎凋病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30~40kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バスマド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30~40kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
菌核病	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
苗立枯病	ドロコロル	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土 1回以内、圃場 1回以内)
苗腐病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	バスマド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
コガ	オンコル粒剤5	ベンアラカルブ 粒剤	1A		0.5g/株		定植時	株元散布	1回
					9kg/10a		定植時	全面土壌混和	1回
	コテツアアアル	クロルフェニル水和剤	13	劇	2000倍	150~300%/10a	発生初期	散布	2回以内
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	-
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	2回以内
マブリック水和剤20	フルバリネット水和剤	3A	劇	2000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	2回以内	
ハイマダラノメイガ	モスピラン粒剤	アセタミプリド 粒剤	4A		0.5g/株		育苗期	株元散布	1回

(3) トルコギキョウ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
炭疽病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ 水和剤	"UN(I*)		400倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
アザミカ類	マブリック水和剤20	フルバリネット水和剤	3A	劇	4000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	2回以内
ハモンヨウ	トレボン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100~300%/10a	-	散布	6回以内

(4) スターチス

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
うどんこ病	フルビカアアアル	メバニピリム水和剤	9		2000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	フルビカアアアル	メバニピリム水和剤	9		2000~3000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	5回以内
	ボリベリン水和剤	イミダクジン酢酸塩・ボリキシン水和剤	"[-](I*),M7		1000倍	100~300%/10a	発病初期	散布	8回以内
	ロブテール水和剤	イブロン水和剤	2		1000~1500倍	100~300%/10a	-	散布	8回以内
シロイロヨウ	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	3回以内
ハモンヨウ	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100~300%/10a	発生初期	散布	3回以内

(5) スイセン

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
球根腐敗病	ホーマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1,M3		200倍		植付前又は貯蔵前	30分間球根浸漬	1回
							球根重量の1.0%	植付前又は貯蔵前	球根粉衣

(6) ユリ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
球根腐敗病	ホーマイ水和剤	チラム・チオファネートメチル水和剤	1,M3		200倍		植付前又は貯蔵前	30分間球根浸漬	1回
							球根重量の1.0%	植付前又は貯蔵前	球根粉衣
茎腐病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	5回以内
灰色かび病	アフェットプロアブル	ベンチオキサロニル水和剤	7		2000倍	100～300 μ g/10a	発病初期	散布	3回以内
	フルビカプロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	発病初期	散布	5回以内
葉枯病	タニコール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 μ g/10a	発病前～発病初期	散布	6回以内
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	5回以内
	フルビカプロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	発病初期	散布	5回以内
	フロキサド水和剤	フルアジナム水和剤	29		2000倍	100～300 μ g/10a	発病初期	散布	3回以内
	ボリキシンAL水溶剤	ボリキシン水溶剤	"[-] (I*)		2500倍	100～300 μ g/10a	発病初期	散布	8回以内
鱗茎さび症	フロキサド水和剤	フルアジナム水和剤	29		100～200倍	-	植付前	球根瞬間浸漬	1回
アラムン類	クララ50DF	フロニカミド水和剤	29		10000倍	100～300 μ g/10a	発生初期	散布	6回以内
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		2000倍	100～300 μ g/10a	-	散布	6回以内

(7) サクラ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
てんぐ巢病	トップジンMベースト	チオファネートメチルベースト剤	1		原液		病枝切除後	塗布	5回以内
アメリカシトリ	アトラック液剤	チアトキサム液剤	4A			胸高直径(樹幹部)、6～10cm 30mL、11～15cm 60mL、16～20cm 90mL、21～25cm 120mL、26～30cm 180mL、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに30～60mLを増量する。	幼虫発生前～幼虫発生期	樹幹注入	3回以内
							発生初期	散布	5回以内
							発生初期	散布	5回以内
							発生初期	散布	-
コスカバ	スカバコンL	シナンテルア剤			40～100本/10a(8g/100本製剤)		成虫発生初期から終期	ディスプレイ-を対象作物の枝に巻き付け設置する。	
モンクシヤチコ	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～1500倍	200～700 μ g/10a	発生初期	散布	5回以内
	ジエイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000～1500倍	200～700 μ g/10a	発生初期	散布	5回以内
	バシレックス水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	200～700 μ g/10a	発生初期	散布	-

(8) 花き類・観葉植物

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
青枯病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	トコロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎黄病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎凋病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎黄病(7ガリウム菌)	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~5mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	トコロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴当り 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
うどんこ病	アンビフルアゾール	ヘキサコゾール水和剤	3		1000倍	150~300g/10a	発病初期	散布	7回以内	ばら、きくを除く
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100~200倍	100~300g/10a	発生初期	散布	-	
	ガッテン乳剤	フルチアル乳剤	U13		5000倍	100~300g/10a	発病前~発病初期	散布	2回以内	
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶液	NC		800倍	150~500g/10a	発病初期	散布	-	きくを除く
	サンクスル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		600倍	150~500g/10a	-	散布	-	
	パンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100~300g/10a	-	散布	2回以内	
	ボリオキシAL水溶液	ボリオキシ水溶液	"「-」(I*)		2500倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	
モレスタン水和剤	モキシリン系水和剤	"UN(I*)		2000~3000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	10回以内	カーネーションを除く	
株腐病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	リゾレックス水和剤	トルクロホスチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	生育期	土壌灌注	5回以内	
球根腐敗病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
菌核病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500倍	100~300g/10a	-	散布	5回以内	トルコギキョウを除く
茎腐病	リゾレックス水和剤	トルクロホスチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	生育期	土壌灌注	5回以内	
黒斑病	ボリオキシAL水溶液	ボリオキシ水溶液	"「-」(I*)		2500倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	
根頭がんしゅ病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
首腐病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
白絹病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	モンカトフロアブル40	フルトラニル水和剤	7		1000~2000倍	100~300g/10a	-	株元散布	3回以内	
	リゾレックス水和剤	トルクロホスチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	-	株元灌注	5回以内	
立枯病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースアミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	リゾレックス水和剤	トルクロホスチル水和剤	14		500~1000倍	3g/m ²	生育期	土壌灌注	5回以内	
	リゾレックス粉剤	トルクロホスチル粉剤	14		50kg/10a		定植前	土壌混和	1回	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
苗立枯病(リゾトニア菌)	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
灰色かび病	アフェートフロアブル	ベンチビラト水和剤	7		2000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	3回以内	きく、ゆり、チューリップ、りんどうを除く
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000倍	100~300g/10a	-	散布	5回以内	ひまわり、ゼラニウムを除く
	セビアーフロアブル20	フルジホキニル水和剤	12		1000倍	100~300L/10a	発病前~発病初期	散布	4回以内	きんせんか、ホワイトトレースフラワーを除く
	チノックフロアブル	チカラム水和剤	M3		500倍	100~500g/10a	発病初期	散布	6回以内	りんどうを除く
	トレノックスフロアブル	チカラム水和剤	M3		500倍	100~500g/10a	発病初期	散布	6回以内	りんどうを除く
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000~3000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	5回以内	ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどうを除く
	ホリオキシAL水溶剤	ホリオキシ水溶剤	"「-」(I*)		2500倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	
	ホリベリン水和剤	イミダジン酢酸塩・ホリオキシ水和剤	"「-」(I*),M7		1000倍	100~300g/10a	発病初期	散布	8回以内	ストック、スターチス、チューリップ、ばら、ククマ、きくを除く
半身萎凋病	ガスタード 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	トコロール	クロルピリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当たり 3~6mL<圃場>1穴当たり 2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	バースミド 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
ビシウム・リゾトニア菌による病害(苗立枯病等)	ホソサイド 水和剤80	キャブタン水和剤	M4		種子重量の0.2~0.4%	-	は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	
ゾリウム・リゾトニア菌による病害(苗立枯病等)	ホーマイ水和剤	チカラム・チオファネートメチル水和剤	1,M3		種子重量の1.0%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
リゾトニア菌による病害(苗立枯病等)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		乾燥種子重量の0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
	モンカト水和剤	フルラニル水和剤	7		種子重量の0.5~1.0%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
アムシ	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100~300g/10a	-	散布	6回以内	
アザミヤカ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	ガーベラを除く
	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000~1500倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3~6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く
	オンコル粒剤5	ベンフラカルブ粒剤	1A		6kg/10a		生育期	株元散布	3回以内	きく、ストックを除く
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100~300g/10a	-	散布	6回以内	
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・ステノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	2回以内	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500~5000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	ハチハチフロアブル	トルフェンビラト水和剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	モビラン顆粒水溶剤	アセミアリド水溶剤	4A	劇	2000倍	100~300g/10a	発生初期	散布	5回以内	ストック、りんどうを除く

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
アブラムシ類	アデイオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000～4000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はぼたんを除く
	アドマイアフロアブル	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～200g/10a	発生初期	散布	5回以内	きくを除く
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～1500倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たदैいを除く
	コルト顆粒水和剤	ビリファルナゾン水和剤	9B		4000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	4回以内	チューリップを除く
	スカトフロアブル	トラロメリン水和剤	3A	劇	2000～3000倍	100～300g/10a	-	散布	5回以内	宿根かすみそう、グラジオワス、トルコギキョウ、りんどうを除く
	フェス顆粒水和剤	ピメトジン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	ばら、きくを除く
	ベストガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		発生初期	生育期株元散布	4回以内	きく、きんせんかを除く
					3～5g/培土g		定植前	培土混和	1回	きく、きんせんかを除く
		モスピランジェット	アセチアプリドくん煙剤	4A	劇	くん煙室容積400立方m(床面積200㎡×高さ2m)当り50g		発生初期	くん煙	5回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	アセチアプリド水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	ストック、りんどうを除く
	ロディール乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
材カビカ	アケルフロアブル	メタルミジン水和剤	22B		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	きくを除く
	アファム乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	きく、りんどうを除く
	ブレオフロアブル	ビリタリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
カクムリ類	ナメクレン3	メタルデヒド粒剤	「-」		1～3kg/10a		-	株元散布	6回以内	
カムシ類	アデイオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はぼたんを除く
コジツミ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100～200倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	
	コルト顆粒水和剤	ビリファルナゾン水和剤	9B		4000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	4回以内	チューリップを除く
	フェス顆粒水和剤	ピメトジン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	ばら、きくを除く
	ラノテープ	ビリアロキシフェン剤	7C		50㎡/10a		栽培期間中	作物体の付近に設置する。	1回	施設栽培
センチュウ類	ドクロール	カロルグリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3～6mL<圃場>1穴当り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
ナメクシ類	ナメクレン3	メタルデヒド粒剤	「-」		1～3kg/10a		-	株元散布	6回以内	
ネキリムシ類	ドクロール	カロルグリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3～6mL<圃場>1穴当り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	ネリハイ	ベルメリン粒剤	3A		3g/㎡		生育初期	株元散布	6回以内	
ネコフセンチュウ	ガスタード微粒剤	ダゾット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バスマイト微粒剤	ダゾット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
ハモシトウ	フェニックス顆粒水和剤	フルベニジアミド水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	きく、りんどうを除く
	ブレオアプロール	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
	マッチ乳剤	ルフェヌロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	きくを除く
ハダニ類	アグリメック	アグリメクチン乳剤	6	劇	500倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	カーベラを除く
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	
	カネマイトアプロール	アセキノシル水和剤	20B		1000倍	150～300g/10a	-	散布	1回	ばら、きく、カーネーション、デルフィニウムを除く
	コテツアプロール	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		600倍	150～500g/10a	-	散布	-	
	ダニサラバアプロール	シフルメトフェン水和剤	25A		1000倍	100～350g/10a	発生初期	散布	2回以内	
	ダニトロンアプロール	フェニピロキシメト水和剤	21A		1000～2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	1回	
	テラオン乳剤	テトラシホン乳剤	12D		500～1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	10回以内	
	ニッソラン水和剤	ヘキシチアキス水和剤	10A		2000～3000倍	100～300g/10a	-	散布	2回以内	
	ハロックアプロール	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	1回	
	ピラニカEW	テラフェニラト乳剤	"21A(I*)	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	1回	カーネーション、きくを除く
	ロビイ乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300g/10a	発生初期	散布	-	
	粘着くん液剤	ヒドロキシプロピル化リジン酸架橋デンプン液剤	「-」		100倍	150～300g/10a	発生初期	散布	-	
ハダニ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
ハマキムシ類	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はばたんを除く
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	-	散布	6回以内	
ハダニ類	アクトラ顆粒水溶剤	チアマトキサム水溶剤	4A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	宿根アスター、トルギキョウ、きくを除く
	アファム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	テリアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
ハダニ類	ドコロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当り 2～3mL		土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)		
マハモクシバエ	トリカド液剤	シロメチン液剤	17		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	4回以内	
ミカンキイロアザミウマ	アクトラ顆粒水溶剤	チアマトキサム水溶剤	4A		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	宿根アスター、トルギキョウ、きくを除く
	コテツアプロール	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
ヨトウムシ類	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	6回以内	はばたんを除く
	アファム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	5回以内	
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根アスター、カーネーション、アリウム、たदैいを除く
	コテツアプロール	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
	ノーマル乳剤	テラベノスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	発生初期	散布	2回以内	

(9) 樹木類 (木本作物)

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
うどんこ病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
	トリアミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		3000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
枝枯細菌病	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700g/10a	新梢伸長期～発病初期	散布	4回以内
切り口及び傷口の癒合促進	トップジンMペーコート	チオファネートメチルペーコート剤	1		原液		剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	塗布	5回以内
炭疽病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～2000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700g/10a	発病初期	散布	4回以内
斑点症(シュート・サウスポー菌)	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700g/10a	発病初期	散布	4回以内
輪紋葉枯病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700g/10a	発病初期	散布	5回以内
アザミマ類	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	5回以内
アブラムシ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内
アメリカハトリ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		500～1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内
	ダイアジノン水和剤34	ダイアジノン水和剤	1B	劇	1000～1500倍	200～700g/10a	発生初期	散布	4回以内
	トアロ水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	-
	ニトリアー<アミノ>	フォルウェアール剤			直線使用(街路樹など)40m当り1個以上		成虫発生初期から発生後期	本剤をトラップ1台当り1個貼付け、地上1～6mの高さに設置する。	
				面使用(公園など)10a当り3個以上		成虫発生初期から発生後期	本剤をトラップ1台当り1個貼付け、地上1～6mの高さに設置する。		
オオハシセンチュウ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		500倍	-	移植前	30分間根部浸漬	1回
ホトケルヒ	トレボン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		2000倍	100～700g/10a	幼虫発生期	散布	6回以内
ゲンバハシ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内
カミシ類	ステインガーフロアブル	フルベソジアミド水和剤	28		8000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	2回以内
	トレボン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		4000倍	100～700g/10a	幼虫発生期	散布	6回以内
カミシ類(若～中齢幼虫)	デミリン水和剤	ジフルベソジオン水和剤	15		4000～8000倍	200～700g/10a	-	散布	3回以内
シャクトリムシ類	トレボン乳剤	イトフェンブロックス乳剤	3A		4000倍	100～700g/10a	幼虫発生期	散布	6回以内
トビモノオエダシヤク	パシレックス水和剤	BT水和剤	11A		500～1000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	-
ハダニ類	パシロックフロアブル	イトキサゾール水和剤	10B		2000倍	200～700g/10a	発生初期	散布	1回
フーバハラジウムシ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700g/10a	-	散布	6回以内

〈参考1〉 花きのアブラムシ類の防除薬剤

浸透移行性：○あり
△弱い
×なし

作目欄：◎防除指針に採用
○登録のあるもの

分類	分類コード	薬剤名		人畜毒性	浸透移行性		作用性		キ	ス	ユ	トル	花	キクにおける他の適用害虫名等	
		一般名	商品名		浸透性	移行性	効果発現	効果持続							
有機リン系	1B	アセフェート	オルトラン粒剤	劇	○	○	—	長	○				◎	アザミウマ類、ネキリムシ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類	
			ジェイエース粒剤	劇	○	○	—	長	○			○	○	アザミウマ類、◎マメハモグリバエ	
			オルトラン水和剤	劇	○	○	中	長						◎	◎マメハモグリバエ、オオタバコガ
			ジェイエース水溶剤	劇	○	○	速	長	○					○	アザミウマ類、マメハモグリバエ、オオタバコガ
		M E P	スミチオン乳剤	劇	○	×	速	長	◎						フラーバラゾウムシ、カメムシ類、ヨトウムシ類
		P A P	エルサン乳剤	劇	○	×	速	長	*						*キクヒメヒゲナガアブラムシのみ
		プロチオホスト	クチオン乳剤	劇	×	×	速	長	○					フラーバラゾウムシ、◎アザミウマ類、ハダニ類	
カーバメート系	1A	アラニカルブ	オリオン水和剤40	劇	○	×	速	長	◎					◎ハスモンヨトウ、オオタバコガ	
合成ピレスロイド系	3A	フルバリネート	マブリック水和剤20	劇	×	×	速	長	○						
		トラロメトリン	スカウトフロアブル	劇	○	×	速	長				○	◎		
		シペルメトリン	アグロスリン乳剤	劇	×	×	速	中	○						
		ペルメトリン	アディオン乳剤	劇	×	×	速	中					◎		
		アクリナトリン	アーデント水和剤	劇	×	×	速	長	◎					ハダニ類、◎ミカンキイロアザミウマ	
		エトフェンプロックス	トレボン乳剤	劇	○	×	速	中	○		◎				
		フェンプロバトリン	ロディー乳剤	劇	×	×	速	中～長						◎	
ネオニコチノイド系	4A	アセタミプリド	モスピラン顆粒水溶剤	劇	○	○	速	長					◎		
			モスピランジェット	劇	—	—	速	長				○	◎		
		イミダクロプリド	アドマイヤーフロアブル	劇	○	○	速	長	○				◎	アザミウマ類(キクは施設栽培のみ)	
		ニテンピラム	バストガード水溶剤	劇	○	○	速	長	○					◎	コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ
			バストガード粒剤	劇	×	○	—	長	○					◎	◎ミカンキイロアザミウマ、マメハモグリバエ
		チアメトキサム	アクタラ粒剤5	劇	○	○	中	長						○	
		クロチアニジン	ダントツ水溶剤	劇	○	○	速	中	○					○	ナモグリバエ、アザミウマ類、ハモグリバエ類、カメムシ類
ジノテフラン	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	劇	○	○	速	長	○					○	カメムシ類、◎ハモグリバエ類、コナジラミ類		
ピリジニアゾメチン誘導体	9B	ピメトロジン	チェス顆粒水和剤	劇	○	○	中	長					◎		
		ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤	劇	○	△	中	長					◎		
METI剤	21A	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤	劇	×	×	速	長	○					◎アザミウマ類、ハモグリバエ類、白さび病	
フロニカミド	29	フロニカミド	ウララ50DF	劇	○	○	遅	長	◎		◎				
—	—	還元澱粉糖化物	エコピタ液剤	劇	×	×	速	短					◎	ハダニ類	

アブラムシ防除薬剤使用上の注意事項

- 1 薬剤抵抗性アブラムシの発生を防止するため、同一薬剤、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- 2 合成ピレスロイド系統の薬剤はリサージェンス(虫の増加)に注意する。
- 3 マブリック水和剤20は高濃度での散布で汚れが残ることがある。

〈参考2〉 キクのハダニ類の防除薬剤

対象欄：○効果高い △効果低い ×効果なし
 浸透移行性：○あり △弱い ×なし
 作目欄：◎防除指針に採用 ○登録のあるもの

分類	分類コード	薬剤名		人畜毒性	対象			浸透移行性		作用性		キク	花き類・観葉植物
		一般名	商品名		成虫	幼虫	卵	浸達性	移行性	効果発現	効果持続		
テトラジホン	12D	テトラジホン	テデオン乳剤		×	×	○	×	×	遅	長		◎
METI剤	21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル		○	○	△	×	×	速	長		○
		テブフェンピラド	ピラニカEW	劇	○	○	○	○	×	速	長	◎	◎
合成ピレスロイド系□	3A	ビフェントリン	テルスター水和剤		○	○	△	×	×	速	長	◎	
		フェンプロパトリン	ロディー乳剤	劇	○	○	×	×	×	速	長		◎
ピロール	13	クロルフェナピル	コテツフロアブル	劇	○	○	○	○	×	速	長	◎	◎
エトキサゾール	10B	エトキサゾール	バロックフロアブル		×	○	○	×	×	遅	長		◎
β-ケトニトリル誘導体	25A	シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル		○	○	○	×	×	速	長		◎
		シエノピラフェン	スターマイトフロアブル		○	○	○	○	×	速	長	◎	
アベルメクチン系	6	アバメクチン	アグリメック	劇	○	○	○	○	×	中	長		◎
ヘキシチアゾクス	10A	ヘキシチアゾクス	ニッソラン水和剤		×	○	○	○	×	遅	長		◎
アセキノシル	20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル		○	○	○	×	×	速	長	○	◎
—	—	デンプン	粘着くん液剤		○	○	×	×	×	速	短		◎
	—	脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤		○	○	○	△	×	速	長		◎
	—	還元澱粉糖化物	エコピタ液剤		○	○	×	×	×	速	短	○	◎

〈参考3〉 キクのアザミウマ類の防除薬剤

◎防除指針に採用 ○登録のあるもの

分類	分類コード	一般名	商品名	人畜毒性	キク			キクにおける他の適用害虫名
					アザミウマ類	ミナミキイロ		
						ミカ	ミナ	
有機リン系	1B	プロチオホスト	トクチオン乳剤		◎			アブラムシ類 フラーバラゾウムシ ハダニ類
カーバメート系	1A	ベンフラカルブ	オンコル粒剤 5		○	◎	◎	
		カルボスルファン	ガゼット粒剤	劇		○		ネグサレセンチュウ・アブラムシ類
合成ピレスロイド系	3A	ビフェントリン	テルスターフロアブル	劇		○		ハダニ類
		アクリナトリン	アーデント水和剤			◎		アブラムシ類・ハダニ類
ベンゾイル尿素系	15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤			◎		マメハモグリバエ
		ルフェヌロン	マッチ乳剤		○			マメハモグリバエ、ハスモンヨトウ
		クロルフルアズロン	アタブロン乳剤				○	シロイチモジヨトウ
ネオニコチノイド系	4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤			○		コナジラミ類、アブラムシ類
			ベストガード粒剤			◎		マメハモグリバエ、アブラムシ類
		アセタミプリド	モスピラン粒剤		◎	○		アブラムシ類、ハモグリバエ類
		イミダクロプリド	アドマイヤーフロアブル (施設栽培のみ)	劇	○			アブラムシ類
			アドマイヤー1粒剤		○			アブラムシ類
チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤			○		ハモグリバエ類 ウスモンミドリカスミカメ		
アベルメクチン系 ミルベマイシン系	6	エマメクチン 安息香酸塩	アフーム乳剤		◎			
ピロール	13	クロルフェナピル	コテツフロアブル	劇		○	◎	ヨウトムシ類・◎ハダニ類・オオタバコガ・アワダチソウゲンバイ
スピノシン系	5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤		◎			◎オオタバコガ・◎ハモグリバエ類
M E T I 剤	21A	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤	劇	◎			白さび病・アブラムシ類・ ハモグリバエ類

＜参考4＞ 花き類の灰色かび病の系統別薬剤

◎防除指針に採用
○登録のあるもの

分類	分類コード	一般名	商品名	キ	ス	ス	ユ	花き類・観葉植物	予防・治療剤別
				ク	スターチス	トック	リ		
ジチオカーバメート (求電子剤)	M3	マンネブ	エムダイファー水和剤	◎					予防
		チウラム	チオノックフロアブル					◎	予防
			トレノックスフロアブル					◎	予防
MBC殺菌剤 + N-フェニルカーバメート	1 10	チオファネートメチル・ ジエトフェンカルブ	ゲッター水和剤					◎	予防 治療
ジカルボキシイミド	2	イプロジオン	ロブラール水和剤		◎				予防 治療
ポリオキシシン + ビスグアニジン	19	ポリオキシシン	ポリオキシシンAL水溶剤					◎	予防 治療
	M7 19	イミノクタジン酢酸塩・ ポリオキシシン	ポリベリン水和剤	○	◎	◎		◎	予防 治療
AP殺菌剤 (アニノピリミジン)	9	メパニピリム	フルピカフロアブル		◎		◎	◎	予防
無機化合物	M1	D B E D C	サンヨール	○	○			○	予防
SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7	ペンチオピラド	アフェットフロアブル	○			◎	◎	予防 治療
PP殺菌剤 (フェニルピロール)	12	フルジオキソニル	セイビアーフロアブル20					◎	予防

- 1) 施設の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。
- 2) 病葉は早めに摘除し、圃場外に持ち出して焼き捨てるか土中に埋め込む。
- 3) 同じ系統に属する農薬の連用は、耐性菌の発現を助長する。

＜参考5＞ キク白さび病の防除薬剤

作用性の欄： ○効果あり

分類	分類コード	薬 剤 名		作 用 性		
		一般名	商品名	浸透性	予防	治療
無機化合物(求電子剤)	M2	硫 黄	コロナフロアブル		○	
ジチオカーバメート(求電子剤)	M3	マンゼブ	ジマンダイセンフロアブル		○	
SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7	メプロニル	バシタック水和剤75		○	○
DMI殺菌剤 (脱メチル化阻害剤)	3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○	○	○
		イミベンコナゾール	マネー ジ乳剤		○	○
		ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○	○	○
		トリホリン	サプロール乳剤	○	○	○
		マイクロブタニル	ラリー ー乳剤	○	○	○
		プロピコナゾール	チルト乳剤25	○	○	○
QoI殺菌剤(Qo阻害剤)	11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル	○	○	○
ピリミジンアミン	39	ジフルメトリム	ピリカット乳剤	○	○	○

〈参考6〉 殺菌・殺虫剤使用時の注意事項

キク

薬剤名	注意事項
ガスタード微粒剤	・水に触れると有毒なガスが発生するので保管・取扱いには注意する。
バスアミド微粒剤	
ストロビーフロアブル	・薬害防止のため、他剤との混用や展着剤は加用しない、高温多湿条件下では使用しない。
エムダイファー水和剤	・ボルドー液、石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤との混用はさける。

花き類(草本植物)・観葉植物

薬剤名	注意事項
ダニトロンフロアブル	・花に薬害が生じる場合があるので、注意する。
カリグリーン	・展着剤を加用する。
ポリオキシAL水溶剤	・キクに使用する場合、薬害が生じる恐れがあるため、着蕾期以降は高温時の散布を避ける。
エコピタ液剤	・カーネーションで茎葉のワックス層が溶け、薬害が出やすいので注意する。

〈参考7〉 ウィルス一覧表

主な花き類のウィルス病と伝染方法

◎は重要ウィルス

花き名	病名	病原ウィルス	略号	伝染方法			
				接触	土壌	虫媒	媒介昆虫等
キク	えそ病	◎ トマト黄化えそウィルス	T SW V	+	-	+	ミカンキロアザミウマ他
	茎えそ病	キク茎えそウィルス	C SN V	-	-	+	ミカンキロアザミウマ
	ウィルス病	トマトアスパーミウウィルス	T A V	+	-	+	アブラムシ類
		キク B ウィルス	C V B	+	-	+	アブラムシ類
		キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
わい化病	◎ キクわい化ウイロイド	C S V d	+	-	-		
ユリ	ウィルス病	タバコモザイクウィルス	T M V	+	+		
		◎ キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
		◎ ユリ微斑ウィルス	L M o V	+	-	+	アブラムシ類
		◎ ユリ潜在ウィルス	L S V	+	-	+	アブラムシ類
		リンゴステムグルーピングウィルス	A S G V	+	-	-	
スイセン	モザイク病	スイセン微斑モザイクウィルス	N M M V	+	-	+	
	ウィルス病	◎ スイセン黄色条斑ウィルス	N Y S V	+	-	+	
		スイセンモザイクウィルス	N M V	+	-	-	
		キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
		タバコ茎えそウィルス	T R V	+	(+)	-	センチュウ
		トマト輪点ウィルス	T o R S V	+	+	-	センチュウ
		トマト黒色輪点ウィルス	T B R V	+	(+)		センチュウ
		アラビスモザイクウィルス	A r M V	+	(+)	+	センチュウ
ソラマメウルトウィルス	B B W V	+	-	+	アブラムシ類		
トルコギキョウ	えそモザイク病	◎ キュウリモザイクウィルス	C M V	+	-	+	アブラムシ類
	モザイク病	◎ ソラマメウルトウィルス	B B W V	+	-	+	アブラムシ類
		インゲンマメ黄斑モザイクウィルス	B Y M V	+	-	+	アブラムシ類
	えそ病	トルコギキョウえそウィルス	L N V	+	+		オルピディウム菌 (カビの一種)
	えそ輪紋病	アイリス黄斑ウィルス	I Y S V	-	-	+	ネギアザミウマ他

+:伝染する、 -:伝染しない

(+):スイセンでは知られていないが、他の植物では確認されている。

2 花き除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 使用薬量は、散布実面積当りの量を厳守する。
- ② 土壌処理剤は、整地後または畦立後表土を均平にし、土壌表面に均一に散布する。
- ③ 粘土質の透水の悪い圃場では、薬量を減らす。砂質地は薬効が少なく、薬害が出易いので注意する。
- ④ 土壌処理後、敷わら、もみがらマルチの併用は抑草効果を高める。
- ⑤ マルチ、トンネル、ハウスでは薬害が出易いので、薬量を少なめにする。また、極端な高温乾燥時は散布しないようにする。
- ⑥ 散布にあたっては、除草剤専用の散布器具を使用し、噴口は必ずフード付きのものを使用する。
- ⑦ 散布にあたっては、メガネ、マスク、防除衣、手袋などを必ず着用する。

(2) 使用方法

作物名	除草剤名	適用雑草名	使用基準		10アール当たり使用量		注意事項
			時期	回数	薬量	希釈水量	
ユリ	トレファンサイド乳剤 トリフルリン 44.5% ☉	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、 キ科、アブラナ科除く)	植付後 ～ 萌芽前	1	200～300 ml	100 ℓ	<全面土壌散布> ・散布は均一に、または夕方や曇った日に実施する。 ・土壌が乾燥している場合、土壌を適当に湿らせるか、あるいは降雨後に散布する。
スイセン			萌芽前	1	200～300 ml	100 ℓ	
キク (露地栽培)			定植後	1	200～300 ml	100 ℓ	
スイセン	プリグロックSL ジクワット 7.0% パラコート 5.0% ☉	一年生雑草	萌芽前 (雑草生育期)	3	600～1,000 ml	100～150 ℓ	<雑草茎葉散布> ・医薬用外毒物。取扱いには、特に注意する。 ・有用作物に、飛散させない。
			畦間処理: 雑草生育期 (草丈20cm以下)				
花き類・ 観葉植物 (チューリップ、スイセンを除く)			畦間処理: 雑草生育期 (草丈20cm以下)	3	600～1,000 ml	100～150 ℓ	
キク	ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	1	200～400 ml	70～150 ℓ	<全面土壌散布> ・キク科雑草とツユクサには、効果が劣る。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするか降雨後に散布する。
			定植後 (雑草発生前)				

作物名	除草剤名	適用雑草名	使用基準		10アール当たり使用量		注意事項	
			時期	回数	薬量	希釈水量		
キク	ナブ乳剤 セトキジム 20.0%	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期	3	150～200 ml	100～150 ℓ	<雑草茎葉散布又は全面散布> ・効果が発現するまでに、7～10日を要する。 ・広葉雑草およびカヤツリグサ科には、効果がない。	
樹木類	ナブ乳剤 セトキジム 20.0%	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期	3	150～200 ml	100 ℓ	<雑草茎葉散布又は全面散布>	
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	一年生雑草	雑草生育期	3	300～500 ml	100～150 ℓ	<雑草茎葉散布>	
樹木等 (公園・庭園・堤とう・ 駐車場・道路・運動場・宅地・ のり面・鉄道など)	ブリグロックSL ジクワット 7.0% パコート 5.0%	一年生雑草	雑草生育期	3	800～1,000 ml	100～150 ℓ	<雑草茎葉散布> ・医薬用外毒物。取扱いには、特に注意する。 ・植栽地を除く樹木等の周辺地。	
		多年生雑草			1,500～2,000 ml			
		スギナ	スギナ生育期		1,000～2,000 ml			
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	一年生雑草	雑草生育期	3	500～1,000 ml	100～200 ℓ	<雑草茎葉散布> ・植栽地を除く樹木等の周辺地。	
		多年生雑草			1,000～2,000 ml			
	タッチダウン iQ グリホサートカリウム塩 44.7%	一年生雑草	雑草生育期	3	250～500 ml	10～100ℓ	<雑草茎葉散布> ・植栽地を除く樹木等の周辺地。	
		多年生雑草			500～1,000 ml			
		スギナ	雑草生育期		1,500～2,000 ml			25～100ℓ
		ススキ、クズ	雑草生育期		1,000～2,000 ml			50～100ℓ
		ササ類	雑草生育期					
		雑かん木	雑草生育期					25～100ℓ
	ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	一年生雑草	雑草生育期	3	200～500 ml	通常散布 50～100 ℓ	<雑草木茎葉散布> ・植栽地を除く樹木等の周辺地。	
多年生雑草			500～1,000 ml		少量散布 25～50 ℓ			
一年生及び多年生雑草					少量散布 5～25 ℓ			
スギナ			1,500～2,000 ml		通常散布			
ススキ、ヒレハリソウ、クズ等のつる性多年生雑草、ササ類、雑かん木			1,000～2,000 ml		50～100 ℓ 少量散布 25～50 ℓ			
カソロン粒剤 4.5 DBN 4.5%	一年生雑草、 多年生広葉雑草	雑草発生前～発生始期	3	8～12 kg		<全面土壌散布> ・植栽地を除く樹木等の周辺地。		
	スギナ			8～15 kg				

3 花き植物成長調整剤

◎使用上の注意

- ① 植物成長調整剤の使用にあたっては、登録内容を熟知し、適正に使用する。
極めて微量で作物に作用するので、生育状況、環境条件で効果が異なる。
- ② 農薬など他の薬剤との混用は避ける。

(1) 発根促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
オキシベロン液剤 インドール酪酸 0.4%	キ ク	500～1,000倍 100～200倍 2倍	— — —	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂全体:5～10秒浸漬 ・さし穂基部:10秒浸漬
	カーネーション	200～400倍 2倍	— —	1	・さし穂基部:16～24時間浸漬 ・さし穂基部:5秒浸漬 又はさし穂 100本当り10 mlをさし穂基部に散布
	ツ ツ ジ 類	40倍	6 ～ 7 月 (夏さし)	1	・さし穂基部:3時間浸漬
	ドウダンツツジ	40倍 2倍	6 ～ 7 月 (夏さし)	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂基部:20秒浸漬
	花き類・観葉植物 (カーネーション、キク 及びチューリップを除く)	200～400倍 2倍	— —	1	・さし穂基部:12～24時間浸漬 ・さし穂基部:5～10秒浸漬
タチガレン液剤 ヒドロキシイソキサゾール 41.52%	キ ク	1,000倍	挿し芽直後	1	・土壌灌注 5～10 ℓ/m ²

(2) 親株栽培における側枝への腋芽の着生促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーエー液剤 ベンジルアミノプリン [サイトカイニン剤] 3.0%	キ ク	2,000～4,000倍	摘 心 時	6	・茎葉散布 100～300 ℓ/10a ・無側枝性が強く発現する品種お よび高温期の栽培では、効果が 劣る場合がある。

(3) 伸長抑制

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	キ ク (ポットマム) (施設栽培)	200～400倍	摘心後7～10日 又は定植3日後 から発蕾初期	3	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 5～10 ml/5号鉢
	キ ク (切花用) (施設栽培)	500～5,000倍	生 育 期	4	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
			発 蕾 期 ～ 摘 蕾 期	2	・花首の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	ハ ボ タ ン (施 設 栽 培)	200～400 倍	子 葉 展 開 後 鉢 上 げ 後	2	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
スミセブンP液剤 ウニコナゾールP 0.025%	キ ク (ポットマム)	25～50 倍	摘 芯 10 日 後 頃	2	・節間の伸長抑制(矮化) ・茎葉散布 5～10 ml/5 号鉢 (原液 0.1～0.2 ml/5 号鉢) ・土壌灌注 50～100 ml/5号鉢 (原液 1 ml/5 号鉢)
		50～100 倍	摘 芯 10 日 後 頃		
ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム塩 [ジベレリン生合成阻害剤] 1.0%	キ ク	200～500 倍	育 苗 期 本 葉 2～4 葉 期	1	・茎葉の伸長抑制による小型化 ・茎葉散布 0.5 ml/株
			摘 蕾 期 発 蕾 期 及 び 摘 蕾 期	2	

(4) 開花促進、草丈伸長促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ジベレリン液剤 ジベレリン[ジベレリン剤] 0.63%	キ ク	ジベレリン 25～100 ppm	生 育 期	2	・茎葉散布 50～100 ℓ/10a

(5) 開花抑制

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
エスレル 10 エテホン[エチレン剤] 10.0%	キ ク	500～1,000 倍	摘 芯 時 又 は 定 植 後 1 週 間 以 内 及 び そ の 後 10～14 日 毎	3	・全面散布(株全体がぬれる程度) 2～10 ml/株 ・開花抑制
	キ ク (電 照 栽 培)	500 倍	親 株 摘 芯 時		

(6) 開花促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム塩 [ジベレリン生合成阻害剤] 1.0%	ス ト ッ ク	1,000 倍	葉 数 10～14 枚 時 と その 7～10 日 後	2	・茎葉散布 100 ℓ/10a